平成27年６月10日
第125号

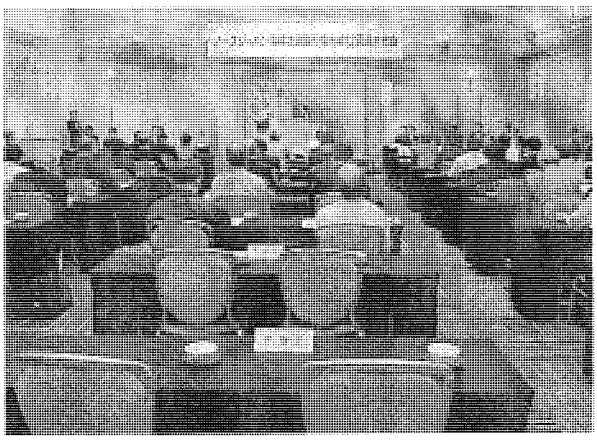
NJ素流協News

平成27年６月10日発行・発行所　ノースジャパン素材流通協同組合　〒020-0024 盛岡市菜園１丁目3-6（農林会館５階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / http://www.soryukyo.or.jp/index.html

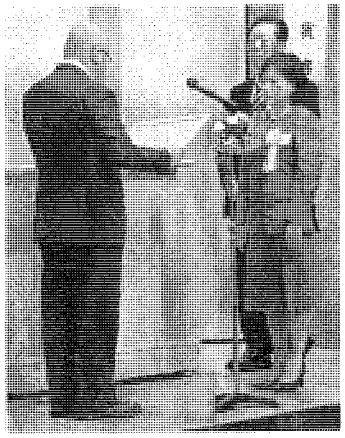
ノースジャパン素材流通協同組合
第12回通常総会開催

ＮＪ素流協第12回通常総会が５月25日、盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングにおいて開催され、来賓、組合員等約70名が出席した。

組合員総数１１７名のうち本人出席26名、委任状出席22名、書面議決書提出59名、計１０７名の出席が確認され、横澤孝一副理事長が開会の辞を述べた。



はじめに下山裕司理事長は、「ＮＪ素流協は平成15年の創立以来、最初の５年間を第１ステージとして「組織の整備と定着化の時期」、次の５年間を第２ステージ「飛躍の時期」と定めて事業を進めて参りました。第３ステージは「人工林の森林資源サイクルの構築と社会的貢献への寄与」を目標に掲げ、初心に立ち返って長期的・継続的かつ着実に事業を進めて参ります。組合員、関係者の皆様にはこれまで以上にご理解、ご指導とご協力をお願い致します」と挨拶した。



次に、「平成26年度いわて農林水産躍進大会」において「意欲ある担い手賞」を受賞された横澤林業㈱代表取締役の横澤孝一さん・和子さんご夫妻を紹介するとともに、奥様の和子さんのご功労に敬意を表し、下山理事長から感謝状が贈呈された。

また林野庁長官から、森林・林業の発展に貢献したとしてＮＪ素流協に対し感謝状が贈呈された。

続いて来賓を代表して東北森林管理局の飛山龍一局長、岩手県農林水産部の小原敏文部長（代理：佐藤順一林務担当技監）、岩手県森林・林業会議の中崎和久理事長（代理：千田育郎専務理事）、㈲川井林業の澤田令代表取締役から御祝辞を頂いた。このうち㈲川井林業の澤田令代表取締役は祝辞の中で、現在の木材業界の課題・現状について次のように述べた。「一点目、原木の需要構造は全国的に大きく変革しており、Ａ材・大径材の需要が減少し、Ｃ・Ｄ材の需要が増加しています。二点目、住宅着工戸数が減少しています。90万戸時代から60万戸時代になるのも時間の問題だと思います。三点目、為替

が円安傾向にありますが、外材は米マツ、ホワイトウッド、レッドウッドとも値下がり傾向にあります。これには様々な要因があると思います。四点目、森林経営計画の策定件数が増加傾向にあると聞いています。策定を進めるには市町村の林業担当職員の理解を得る必要があると考えています。五点目、木材はエンジニアードウッド、工業製品の時代に入ってきたと認識しています。今後はエンジニアードウッドが無垢材と競うのではなく、Ｈ鋼などスチール製品と競う時代に入ったと考えております。まさに、山林経営や素材生産経営にとって明るい展望が開ける、おもしろい時代に入ったと理解しています。」

続いて組合員の㈲佐々木農林佐々木元氏が議長として選出され議事に入り、提出された８議案全てについて、原案通り承認・決定された。主な議事の内容は次の通り。

▽議案第１号「平成26年度事業報告書及び決算関係書類承認の件」

◎平成26年度の素材取扱数量は、合板工場や集成材工場向けを主体に23万２千㎥を販売したが、需要側である工場の受け入れ制限が行われた影響もあり、25万４千㎥の計画に対し92％の実績となった。一方26年度から本格的に納材が始まったバイオマス材については、１トン＝１㎥とすると４万１千㎥となり、合板用等素材と合わせた共同販売取扱総数量は27万４千㎥となった。

◎26年度は国有林の委託販売を初めて実施し、岩手南部森林管理署管内の素材２６００㎥を販売した。

◎教育及び情報提供に関する事業として、次の事業を実施した。

①森林作業道オペレーター養成研修、林業用機械研修、森林・林業・環境機械展（新庄市）及び合板工場（石巻市）視察研修会の開催

②創立10周年記念講演会及び東北地区広域原木流通協議会との共催による原木流通林業講演会の開催

③ＮＪ素流協ニュース、立木公売情報等による情報提供及び合法木材の生産・証明に係る研修会等の開催

◎技術及び情報の共有に関する事業として、青森を含めた４地区で地区別組合員会議を開催したほか、岩手県南地域の新たな需給動向等にかかる地区別組合員会議を開催した。

◎木質系資源の利用拡大に関する事業として、バイオマス材納材説明会及び需給会議等を開催した。

◎受託等による事業として、次の事業を実施した。

①「森林整備加速化・林業再生基金事業」流通専門部会の運営

②森林総合研究所東北支所からの受託による低コスト再造林システムの開発研究

③組合員の出荷原木・バイオマス材の運賃助成事業とりまとめ及び高性能林業機械の導入指導

④「東北地区広域原木流通協議会」における供給側と需要側を対象とした協議会の運営

⑤車両系木材伐出機械等にかかる特別教育講習の開催及び危険防止施設の整備

⑥岩手県からの受託による根株等を含む燃料材生産実証事業

▽議案第３号「平成27年度事業計画書、収支予算決定の件」

◎共同販売事業の計画量は表のとおり。

◎委託販売事業として、東北森林管理局委託販売業務及び組合員が生産した素材の委託販売を行う。

◎技術開発と技術指導、情報提供に関する事業として、①人工林の森林資源サイクルの構築に向けた技術開発と定着化②研修会、講演会等の実施③合法木材・バイオマス材供給、後継者育成等に係る技術指導④ＮＪ素流協ニュース、地区別組合員会議等による情報提供等を実施する。

◎受託事業として、低コスト再造林システムの開発研究（森林総合研究所との共同研究）、広域流通体制確立対策事業（全素協との共同実施）等に取り組む。

表　平成27年度共同販売計画量

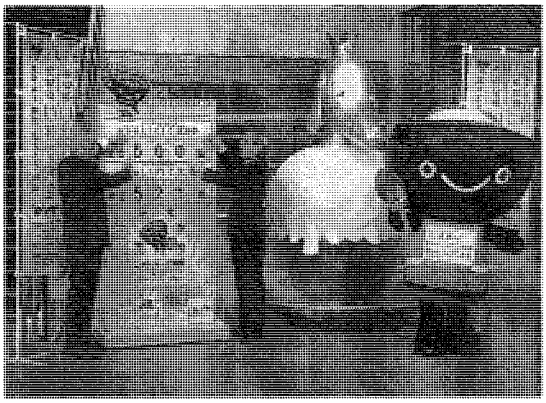
区　分	計画量
合板用素材	185,000㎥
製材・集成材用素材・その他	85,000㎥
計	270,000㎥
バイオマス発電用素材	105,500ｔ

トピックス

希望郷いわて国体・いわて大会カウントダウンボードを贈呈

平成28（２０１６）年に開催される希望郷いわて国体・いわて大会のカウントダウンボードが、国体開幕５００日前にあたる５月20日、県内各地に設置された。

このうち盛岡市のアイーナ及び北上市のさくらホールに設置された木製カウントダウンボードは、ＮＪ素流協が創立10周年を記念して大会事務局に贈呈したもので、ホクョープライウッド㈱様が作製した県産アカマツ合板と、㈱ウッティかわい様が作製した県産スギ集成材が使用されている。



盛岡市　アイーナ３階ホール

下山理事長は、「このカウントダウンボードは、希望郷いわて国体・いわて大会開催にあたり、組合員一同ぜひ何かご協力したいと考え作製したものです。全国から参加される皆さんが〝希望郷いわて〟を実感していただけるよう、暖かくお迎えしたいと思います」と挨拶した。

全素協通常総会開催される

全国素材生産業協同組合連合会の第41回通常総会が５月21日、東京都千代田区において開催され、ＮＪ素流協から下山理事長、高橋常務理事が出席した。今年度の森林林業中央研修会は平成28年１月８日、東京都内での開催が予定されている。

ファーストプライウッド㈱ＬＶＬ工場落成祝賀会に出席

青森県六戸町のファーストプライウッド㈱ＬＶＬ工場（前号で紹介）の見学会及び落成祝賀会が５月22日開催され、関係者約１３０名が落成を祝った。ＮＪ素流協からは２名が出席した。

同工場は４月に操業を開始。青森県産スギ等を原料とし、生産量は当初年間６万㎥と見込まれていたが、現時点では７万５千㎥（原木消費量14万㎥）に上方修正されている。

ＬＶＬは「Laminated Veneer Lumber」の略で単板積層材とも呼ばれ、丸太を桂剥きした単板を重ね合わせて製造される。単板の繊維方向を平行にして重ね合わせる点が合板と異なり、単板を縦方向に繋ぐことで長尺の製品を作ることが可能である。用途は構造用（土台、梁、柱等）、下地用（野縁、胴縁等）、その他造作用と幅広く、今後の需要の拡大が期待されている。

「一般社団法人　日本木質バイオマスエネルギー協会」設立

（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会（会長・熊崎実氏）の設立総会が５月26日、東京都江東区において開催され、ＮＪ素流協から高橋常務理事が出席した。

同協会は平成24年７月に発足した木質バイオマスエネルギー利用推進協議会から移行したもので、林業・木材産業関係者のほか、バイオマス発電や熱利用事業者、シンクタンク、自治体等幅広い関係者により構成され、ＮＪ素流協は26年10月から会員となっている。

伊万里木材コンビナートを視察

４月24日、佐賀県伊万里市の伊万里木材コンビナートにおいて、ＮＪ素流協職員２名が森林整備や木材流通の効率化等の先進的取り組みについて視察したので概要を紹介する。

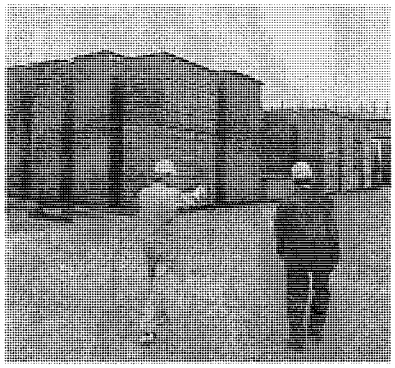
伊万里木材コンビナートは平成16年３月に設立。隣接する㈱伊万里木材市場（原木供給等）、西九州木材事業協同組合（ラミナ製材等）、中国木材㈱伊万里事業所（集成材製造等）の３社から構成され、原木集荷から製材・乾燥・集成・プレカット・流通まで一貫して行われている。

はじめに㈱伊万里木材市場を訪ねた。

同社は幅広い木材需要に対応し原木を安定的に供給するため、平成19年から森林整備事業を開始。立木購入の際、自力での再造林が困難な森林所有者と森林整備協定を結び、伐採から植付け、下刈りまで同社が行い、５年後に所有者に返還する取り組みを行っている。また今年新たに苗木生産を開始するなど、原木の安定供給に向けた森林整備の取り組みに一層力を入れている。

次に見学した西九州木材事業協同組合の集成材ラミナ加工施設では、曲がり材を効率よく製材できるカーブ製材機が導入され、歩留まりの向上が図られていた。

最後に見学した中国木材㈱伊万里事業所の集成材加工施設で製造されているハイブリッド・ビーム（ビームは梁・桁の意）は、外層部に強度のあるベイマツを、内層部に軽くて粘りのある国産スギを使用した構造用集成材で、スギの大量利用を可能にしている。製品は専用の岸壁から船で全国に向け輸送されていた。



中国木材㈱伊万里事業所
大量のラミナが天然乾燥されている

ＮＪ素流協では今回視察した内容を今後の事業の参考にさせていただき、人工林の森林資源サイクルの構築を目指すこととしている。

カラマツ種子生産への試み

近年、再造林の樹種として人気の高いカラマツは、長年の種子不足から苗木不足の状態となっている。

そこで、組合員ほかカラマツ林を所有される皆様にご協力をお願いして、伐採を予定しているカラマツに開花、結実を促す処理を試みることとした。処理法（環状剥皮処理）については県林業技術センターで指導を受け、５月上旬にＮＪ素流協職員が作業を実施した。

この処理により必ずしも開花するとは限らず、種子が採れるのは来年の秋と大分先のこととなるが、何もせずに待っているよりは、との思いで実施したものである。

ご協力頂いた所有者の皆様、処理内容は表１のとおり。

表１　着花促進処理実施箇所一覧

No.	所有者（組合員等）	所在地	処理年月日	処理本数
1-1	㈲丸大県北農林	洋野町種市中野	27.5. 7	7
1-2		洋野町種市中野	27.5. 7	10
1-3		洋野町種市有家	27.5. 7	2
2	斎徳林業	宮古市崎山	27.5.12	11
3	太田浩	奥州市江刺区	27.5.14	9
4	㈲川又林業	盛岡市玉山区	27.5.15	15
5	㈱吉本岩泉事業所	岩泉町小川	27.5.15	10
6-1	㈱階上林業	軽米町上舘	27.5.19	10
6-2		軽米町鶴飼	27.5.19	9
計				83

国有林素材山元委託販売始まる

ＮＪ素流協は、昨年度に引き続き今年度も国有林素材の山元委託販売を行います。岩手南部森林管理署及び岩手北部森林管理署管内の素材約１万２千㎥について複数回に分けて入札を行いますので、皆様の参加をお待ちしています。

５月28日に実施した第１回入札の結果は表２のとおり。

表２　国有林山元委託販売　入札結果

市日：　平成27年5月28日　（第1回）
市場：　岩手南部森林管理署　立石第一・鈴鴨・岩沢　山元土場　（参加者人数　7名）

売払番号	樹種	長級（m）	径級（cm）	等級	本数	材積（㎥）	応札枚数	土場
01	アカマツ	2.0	16-36	3等	376	42.850	3	立石第一
02	アカマツ	2.0	16-44	込	253	27.583	3	立石第一
03	アカマツ	2.0	16-60	込	274	43.052	3	立石第一
04	アカマツ	2.0	18-44	込	159	23.906	3	立石第一
05	アカマツ	4.0	18-42	3等	75	26.558	3	立石第一
06	アカマツNA	2.0				32.760	4	立石第一
07	アカマツNA	2.0				16.493	4	立石第一
08	アカマツNA	2.0				40.522	4	立石第一
09	アカマツNA	2.0				10.282	4	立石第一
10	アカマツNA	2.0				100.548	4	立石第一
11	アカマツNA	2.0				28.690	4	立石第一
12	アカマツNA	2.0				36.036	4	立石第一
13	アカマツNA	2.0				26.309	4	立石第一
14	アカマツNA	2.0				30.240	4	立石第一
15	アカマツNA	2.0				31.185	4	立石第一
16	アカマツNA	2.0				32.760	4	立石第一
17	アカマツNA	2.0				31.777	4	立石第一
18	アカマツNA	2.0				38.443	4	立石第一
19	アカマツNA	2.0				38.732	4	立石第一
20	LA	2.0				9.956	4	立石第一
21	LA	2.0				11.350	4	立石第一
22	ブナ	2.2	24-34	3等	8	1.630	1	鈴鴨
23	ダケカンバ	2.2	22-28	込・3等	4	0.553	1	鈴鴨
24	イタヤカエデ	2.2	22-26	込・3等	3	0.955	1	鈴鴨
25	クリ	2.2	36-40	3等・4等	5	0.749	1	鈴鴨
26	LA	2.2				26.745	4	鈴鴨
27	LA	2.2				25.477	4	岩沢
28	LA	2.2				16.704	4	岩沢
29	LA	2.2				3.136	3	岩沢

平成27年５月分の販売実績

樹種	合板用 当月出荷量(㎥)	合板用 前月比(%)	合板用 前年同月比(%)	その他製材用等 当月出荷量(㎥)	その他製材用等 前月比(%)	その他製材用等 前年同月比(%)	計 当月出荷量(㎥)	計 前月比(%)	計 前年同月比(%)
スギ	7,682	100.9	100.3	4,284	86.7	113.2	11,966	95.3	104.6
カラマツ	4,135	125.6	230.2	1,549	82.9	53.3	5,684	110.1	120.9
アカマツ	3,343	116.2	112.1	19	259.4	7.1	3,362	116.5	103.6
その他針葉樹	0	＊	＊	43	106.0	23.7	43	106.0	23.7
広葉樹	0	＊	＊	195	491.2	53.3	195	491.2	53.3
合計	15,160	110.0	121.9	6,090	88.3	81.2	21,251	102.8	106.6

樹種	バイオマス用素材 当月出荷量(t)	バイオマス用素材 前月比(%)	バイオマス用素材 前年同月比(%)
スギ	656	63.4	68.2
カラマツ	888	121.4	128.6
アカマツ	592	85.5	224.6
合計	2,137	86.9	111.5

注)＊印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

樹種	今年度累計 合板用(㎥)	今年度累計 その他製材用等(㎥)	今年度累計 計(㎥)	今年度累計 バイオマス(t)
スギ	15,294	9,225	24,519	1,692
カラマツ	7,427	3,419	10,846	1,620
アカマツ	6,221	26	6,248	1,284
その他針葉樹	0	84	84	0
広葉樹	0	234	234	0
合計	28,943	12,989	41,931	4,596
目標達成率(%)	15.6	15.3	15.5	4.4
計画量	185,000	85,000	270,000	105,500

【平成27年５月の需要動向】

●製材用・合板用ともにスギ原木の受入制限が続く。６月以降もこの状況が続く見込み。

●カラマツ原木の引き合いは若干落ち着いた状況だが、問題なく納入可能。

●アカマツ原木はカビの時期及び被害地域の伐採制限（６月）に入るため出材が減少傾向。

落穂拾い

わが国の物流業界に異変が起きている。もっとも物流業界をめぐる変化は、昨日今日に始まったわけではなく、十数年前からその変化の兆しは現れていた。ただ、林業界においては長く低迷が続いていたので切実な問題として意識されてこなかった。

国内での物流といえばトラック輸送が主体である。国土交通省の調べによれば、輸送機関別の輸送量(重量ベース)の比率は、２０１０年の貨物全体ではトラック輸送が85％で、残りが海運、鉄道、その他で15％でしかない。ちなみに、木材(原木・製材品・木製品)におけるトラック利用は、原木では92％、製材品では99％、合板等の木製品が98％であり、木材のトラック輸送への依存度が貨物全体に比べても高い実態にある。

先に述べた物流業界の異変とは、煎じ詰めれば、トラック業界に起こっている異変であると言ってもよいだろう。その一つは、トラックドライバーの不足である。これまた国土交通省によれば、全国におけるドライバーの数は、２００６年92万人、２００８年79万人に減少したが、２０１３年に84万人まで戻した。しかし、ベテランの現役世代が退くと、ドライバー不足はさらに深刻化するといわれている。２００８年に行った推計(国土交通省)では、２０１５年に14万人の不足が見込まれている。今年がその２０１５年であるからこの推計値が実態と整合するのかどうか、非常に関心のあるところである。

また、ドライバーの高齢化が急速に進んでいる。年齢階級別の従業者数は、２００３年から２０１３年の10年間に、10歳～20歳代の比率が18・5％から10・1％に、30歳代が27・3％から23・3％へ減少した。これに対し、40歳代は22・3％から30・5％へ、50歳代以上は32・1％から36・4％へと増加している。ドライバーの業務は運転だけではなく貨物の積み込み、荷卸し作業も行うため重労働であり、この面からもドライバーの高齢化は大きな問題を内包している。

ここで木材運搬業界に目を転ずると、長期に渡った林業生産活動の低迷により木材運搬を担うトラック業者は転業・廃業に転じたり、ドライバーが他の運送業界に流れるという趨勢が続いた。また、近年は東日本大震災の復興需要、オリンピック施設の建設等、土木・建築分野への人材需要が高まってダンプカー運転手への転職が増えているという。もっと根本的な問題は、全産業にわたる輸送業界における若齢ドライバーの減少である。若者にとってこの業界が新3K(「キツイ」「帰れない＝泊りがけの仕事が多い」「給料が安い」)職場とみなされ、敬遠されるというのである。この傾向は林業においてはいっそう顕著であり、木材運送業への若手ドライバーの参入・定着を阻んでいる大きな要因である。考えてみれば、奥山の生産現場で丸太を積み、幅員の狭い、不整な路面の林道を気を張って下ってくるのである。その途中ドライバーは独りであり、孤独である。山中で事故でもあれば適切な対応もままならず、携帯電話の通じない場所も多いのである。木材運搬のベテランが「ヒヤリとすることなど何度も経験しているよ」と言うのを聞いたことを思い出すのである。

国産材自給率を50％にするというが、木材の物流をどうしていくのか。現状の国産木材生産量を約２倍にするということですぞ。